公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピーテラスキッズ真由美ルーム和			
○保護者評価実施期間	R8年10月15日	～	R7年10月27日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	17	（回答者数）	17
○従業者評価実施期間	R8年10月22日	～	R8年10月23日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	3	（回答者数）	3
○事業者向け自己評価表作成日	R8年11月2日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	園庭やリズム室などの広い共有スペースを活用し、 子どもたち一人ひとりの発達や興味に合わせて、さまざまな運動遊びや身体を使った活動を取り入れることができる。多様な遊びを通して、身体を動かす楽しさを感じながら、身体の使い方や運動機能の向上につなげている。	園庭の大型遊具や、跳び箱、鉄棒、平均台などの運動教具、支援室内では巧技台やビーム、トランポリンなどを活用し、活動する場所や環境に合わせた設定を工夫している。タオルブランコなどの感覚遊びやふれあい遊びも取り入れ、さまざまな身体の動きや感覚を楽しみながら経験できるような機会を設けている。	体育コースを設定し、専門的な視点を取り入れた運動遊びや集団遊びを通して、子どもたちが楽しみながら身体の使い方や運動技能を身につけられる機会を設けている。また、運動機能の向上だけではなく、集団でのルールを理解する力や話を聞いて行動する力など、集団生活につながる力も育めるよう活動の充実を図っている。
2	幼稚園と事業所が併設している環境を活かし、子どもたちの園での生活や活動の様子を把握しやすい。 子どもの様子や気づきを共有しながら、必要に応じて活動内容や支援方法に反映することができる。また、保育時間内に支援を行うことができるため、子どもたちの生活の流れを大切にしながら園との連携を図り一人ひとりに合わせた切れ目のない支援につなげている。	必要に応じて園の職員と子どもの様子や気づきを共有し、日々の支援に活かしている。また、保護者とは日々の振り返りを通して子どもの様子や成長を共有し、相談にも応じながら、家庭・園・事業所それぞれの状況を踏まえた支援を心がけている。園の活動や行事にも配慮し、その時々の状況に応じて柔軟に対応するとともに、必要に応じて園の職員への助言や情報提供も行っている。	今後も、保護者の方が支援を見学したり一緒に参加したりできる機会を設け、お子さまの成長を一緒に見守る時間を大切にしていく。見学や参加が難しい保護者の方にも、お子さまの成長や日々の取り組みを身近に感じていただけるよう、こちらからのお声掛けや活動の様子を伝えるなど情報発信も工夫していく。他園に通うお子さまにも、保護者の方から園や家庭での様子を伺い、一緒に考えながら関わり方や援助方法を提案していく。また、日々の生活での困りごとをトレーニングに取り入れ、実際の場面につながる経験ができるよう工夫するとともに、相談にも寄り添いながら一人ひとりに合った支援を大切にしていく。
3	幼稚園教諭や保育士としての経験が豊富な職員が多く、子どもたちの日常生活や集団活動の中で必要となる力を理解した上で、一人ひとりに寄り添った支援ができる。 生活動作の習得や身辺自立に向けた支援、集団生活で必要となるルールや習慣、コミュニケーションの力を育む関わりなど、日々の生活や遊びを通して子どもたちの成長を支えている。また、子ども同士の関わりを大切にしながら、友だちとの関係づくりや気持ちを伝え合う力を育めるよう工夫している。	個別・集団トレーニングを通して、集団生活に必要なさまざまな力を育めるよう、子どもの発達や興味に合わせた課題や遊びを取り入れている。一人ひとりとのコミュニケーションを大切にし、好きなことや興味のあるものを把握し、活動にも積極的に取り入れている。子どもたちが「楽しい！やってみたい！」と思えることを大切にし、職員も一緒に楽しみながら、遊びの中で自然と意欲が生まれ、さまざまな経験や自信につながるような関わりを心がけている。	今後も職員向けの研修への参加や、日々の支援を振り返り学び合う機会を大切にし、職員一人ひとりの知識や支援の幅を広げていきたい。また、職員同士でさまざまな視点やアイデアを共有し、新しい遊びや支援方法も積極的に取り入れながら、子どもたちが楽しみながら成長できる支援の充実につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	災害時の訓練や安全対策、マニュアルの策定など、事業所運営に向けた取り組みについて、保護者への周知が十分ではない。	安全計画の策定は行っているものの、災害時の訓練や安全対策など、具体的な取り組み内容を事前に保護者へ伝える機会が少なく、事業所でどのような訓練や対策を行っているのかが分かりにくくなっている。	日々のトレーニング内容や子どもの様子は、療育記録の配布や保護者との振り返りを通してお伝えしている。今後は、災害時の訓練や安全対策など事業所の取り組みについても、実施内容や様子を分かりやすく伝える機会を設け、保護者に事業所の取り組みを知っていただけるよう工夫する。また、掲示やお知らせなども活用し、必要な情報を届けられるよう取り組んでいく。
2	例年、季節のイベントなどで保護者の方が集まる機会は設けているが、保護者会や交流会など、保護者同士がゆっくり交流を深められる機会は十分とは言えない。また、支援見学の際には、保護者同士で自然に会話を交わす様子も見られるが、交流を目的とした場を設けることに至っていない。	保護者同士の交流の機会を設けたいと考えている一方で、話し合う内容によっては参加しづらさを感じる方や、仕事などの都合で参加が難しい方もいると考えている。そのため、保護者それぞれの状況や気持ちに配慮した交流の機会の設け方について、難しさもある。	保護者の方の生活スタイルや思いに合わせて、無理なく参加できる交流や情報共有の機会を工夫していきたい。保護者同士で気軽に話せる場や、先輩保護者の経験を聞ける機会を設けるほか、子どもたちが行っているトレーニングを実際に体験していただくなど、話し合いだけに限らない参加の形も考えていく。保護者の方の気持ちや希望を大切にしながら、保護者同士が自然につながり、安心して交流できる場づくりを目指していきたい。
3	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門資格を持つ職員が在籍していないため、身体機能や言語・コミュニケーション面などについて、専門的な視点からの評価や分析を行うことに難しさがある。	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門資格を持つ人材の採用は年々難しくなっており、求人募集を継続しているものの、なかなか応募につながらず、専門職の確保や配置が難しい状況にある。	これまで培ってきた子どもへの関わりや支援の経験を活かし、活動内容や支援方法を工夫しながら、一人ひとりに合った支援の充実を図っていく。積極的に研修にも参加し、専門的な知識を深めるとともに、外部講師からの助言やアドバイスも取り入れ、日々の支援に活かす。さらに、専門資格を持つ職員の採用にも引き続き取り組み、職員体制の充実を目指していく。